

「危険運転ブレーキを」

厳罰化新法万感の遺族

危険運転致死傷罪の適用対象を広げ、酒や薬物などの影響で死亡交通事故を起こした場合の罰則を強化した「自動車運転致死傷行為処罰法」が、20日の参院本会議で成立した。悪質な運転をした事故当事者の厳罰化を求めてきた道内の遺族らからは、新法成立を評価する声が上がるとともに、より厳しい法整備を求める意見も聞こえてきた。

「この瞬間に立ち会いたい一心で、10年間活動してきた。遺族の思いがやっと理解された」。2003年に飲酒ひき逃げ事故で次男

立証できなかった



「逃げ得は許されないとはっきり打ち出してくれた」。胸に次男の写真を掲げ、新法成立を喜ぶ高石さん

をしくした高石洋子さん(51)＝江別市＝は、同法の成立を国会の傍聴席で見届けた。次男の事故では飲酒運転が立証できなかった

をしくした高石洋子さん(51)＝江別市＝は、同法の成立を国会の傍聴席で見届けた。次男の事故では飲酒運転が立証できなかった

をしくした高石洋子さん(51)＝江別市＝は、同法の成立を国会の傍聴席で見届けた。次男の事故では飲酒運転が立証できなかった

をしくした高石洋子さん(51)＝江別市＝は、同法の成立を国会の傍聴席で見届けた。次男の事故では飲酒運転が立証できなかった

い」と訴えた。「北海道交通事故被害者の会」の前田敏章代表(64)＝札幌市西区＝も「量刑の差が縮まり一歩前進」と評価。ただ、これまで求めてきた、無免許運転を危険運転致死傷罪の適用対象とすることについては見送られ、「被害者の立場に立った法整備をさらに進めるべきだ」と指摘した。交通事故の被害者支援に取り組む青野渉弁護士(42)＝同市中央区＝は「立証しやすい中

間罪は危険運転致死傷罪より罰則が軽い。遺族が納得しないケースが出るかもしれない」と懸念した。